

## 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

# 会報

NO. 85

2023.1.28 発行

編集責任者：河地 清

[Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp](mailto:Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp)

## 第 85 回 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ：『愛知県政 150 年』

第一回通常県会と林 金兵衛の議会活動

講師：河地 清氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長）

今回のテーマは、「愛知県政 150 年」第一回通常県会と林 金兵衛の議会活動で、設定いたしました。明治 10 年代の新政府を取り巻く社会環境は、新しい社会建設の生みの苦しみを一身に背負った時期でもありました。明治 9 年 10 月神風連の乱、秋月の乱、萩の乱などの士族の反乱が続発、10 年 1 月の西南戦争はその極に達した出来事でした。さらに、そうした混乱と並行して全国各地に拡大した地租改正反対運動は、三重県の伊勢暴動を契機に地租を 2.5/100 へ軽減せざるを得ないほどに高揚していました。11 年春日井郡の地租負担軽減紛争もそうした社会環境の中で生じた出来事でした。一方 10 年 11 月福沢諭吉が『分権論』を世に出すことにより、憲法制定、国会開設への世論の高まりは自由民権運動の新しい潮流として民衆の政治への関心の高まりへと繋がってゆきます。大久保利通、伊藤博文を中心とする新政府は、新しい体制づくりに悪戦苦闘していました。そんな中、11 年 5 月 14 日大久保の暗殺死は、重大な出来事でしたが、取りも直さず地方自治の整備確立は、焦眉の急を要する案件でした。11 年 4 月第 2 回地方官会議を経て「郡区長村編成法、府県会規則、地方税規則、」三新法が 7 月 22 日太政官布告されました。大区、小区制をやめ、行政区画として郡、町、村を復活し、郡、区長、戸長を置くことを決めました。

愛知県第一回通常県会は、こうした法体制の下で開催されたものでしたが、議論百出、忌憚のない自由闊達な議論が展開されました。林 金兵衛の議事発言は、多くの議員の賛同を得るものが多く、影響力の大きさを窺わせるものでありました。一方、新政府側で、法整備、地方自治の体制づくりに尽力した愛知県知事安場保和の存在も大きいことがわかります。

政治家林 金兵衛の議員活動、開明的官僚安場保和との出会いと県政などを整理してみました。

まだまだ続く、コロナ禍の影響もあり、参加者は 15 名でした。

## 講演要旨

### ① 明治10年代の社会経済環境

この時期の社会経済環境を年表（『近代日本総合年表』岩波書店1968年）で見してみる。

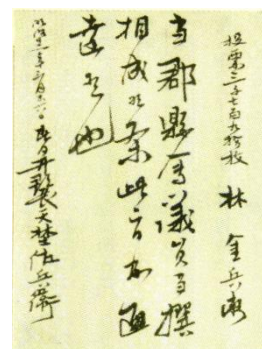
明治9年8月5日金禄公債証券発行条例/10月24日神風連の乱/10月27日秋月の乱/  
10月28日萩の乱/11月30日茨城県真壁・那珂・久慈・茨木の諸郡農民、貢納に関し一揆  
12月19日三重県飯野郡の農民一揆（伊勢暴動）12月27日内務卿大久保利通地租の減額  
を建議/明治10年1月4日地租を減ずる詔書、地租地価を2.5/100賦課に改定/1月30日  
西南戦争始まる/3月20日政府軍激戦の末田原坂を占領/明治10年9月24日西郷隆盛城  
山で自刃（西南戦争おわる）/11月福沢諭吉『分権論』著す/明治11年4月10日第2回地  
方官会議開催（議長・伊藤博文）三新法等審議5月3日閉会、安場保和（当時福島県令）  
「郡区吏員公選ニスベキ」見解述べる/5月14日参議兼内務卿大久保利通紀尾井町で刺殺  
/7月22日三新法（郡区町村編成法、府県会規則、地方税規則、）太政官布告される、大区  
小区制をやめ、行政区画として郡町村を復活、別に人民輻湊の地を区とし、郡、区長、戸  
長をおく/8月26日内務省、戸長は町村人民になるべく公選させ、必ず府県知事、県令よ  
り辞令書を渡すよう府県に指示、内務通達/9月11日愛国社再興大会、大阪で開催/10月  
25日愛知県東春日井郡の43ヵ村農民、地租改正負担軽減を要求して紛争始まる（～12.2）  
/明治12年3月14日松山にコレラ発生全国に蔓延、患者総数16万2637人死亡10万5784  
人、愛知県1769人（春日井郡20人）/3月20日東京府会（府県会規則による最初）/3月  
27日愛国社第二回大会大阪で開催4/2閉会/5月10日第一回愛知県通常県議会開催（6/27  
閉会）/8月～愛知、石川、新潟、埼玉、群馬県はじめ各地でコレラ消毒、避病院設置、患  
者隔離反対の農民騒擾頻発、暴動化（コレラ一揆）11月7日愛国社第3回大会、大阪で開  
催、次期開催までに国会開設の上奏の署名を集めることを決議（11/13閉会）

明治9年～明治12年の3年間の社会経済環境の状況を概観してわかることは、①士族  
の反乱②地租改正をめぐる紛争の全国的拡大③コレラ感染症パンデミックの社会不安④  
国会開設請願運動と自由民権運動の広がり、社会が大きく変化してゆこうとする歴史の  
うねりを表している。

### ② 林 金兵衛県会議員の当選

全国的に高まりを見せていた「地租改正反対」は、春日井郡にもその波は押し寄せ春日  
井郡125ヵ村の反対運動に発展して行きました。明治9年～12年に及ぶ長期にわたり村々  
の反対運動は明治9年～12年の3年におよぶ長期にわたり村々の経費の増大、財政の逼  
迫が続き、疲弊をしていました。このような危機を金兵衛が運命的な出会いをはたした福沢  
諭吉の尽力によって歴史は大きく展開してゆくこととなります。明治12年2月福沢諭吉、  
徳川慶勝等の斡旋工作等で民衆が暴発することなく、收拾します。足掛け2年に渡る東京で  
の活動を終えて帰国した金兵衛は、息つく間もなく愛知県県会議員に圧倒的多数の支持を  
受けて当選をします。

政府公布三新法（府県会規則・地方税規則・郡区町村編成法）に基づき実施された第一回目の選挙は、金兵衛等にとっては2月に地租改正問題が収束を見たばかりの時期。東春日井郡定数3名の当選者は、林 金兵衛（和爾良村）3790票、伊藤祐信（新川村）1837票、丹羽助十郎（味美村）1767票 有権者総数4800票 被選挙権は、直接国税10円以上、選挙権は、同5円以上納入の者となっていました。



当選証書（明治12年3月26日付）

### ③ 威風堂々の議会活動風景



『翁の風采が魁偉を極め堂々六尺に近き軀幹を有し眉秀でて眼光人を射るものあり鼻高く口締り鬚髯鬢々として威容自ら備わり言動苟もせず言えば必ず肺肝を砕き人を動かさざれば己まざるものあり一見直ちに佐倉の義民木内宗五郎も斯くやと許り推服を禁ぜざるものなり』（「林金兵衛翁追憶略記」 桐原捨蔵より）

当時の金兵衛の活動風景は、桐原（旧姓河野）捨蔵が語るように、巨漢金兵衛が議場を圧倒する存在感をもっていたことを想像させる。

### ④ 林 金兵衛の議会活動

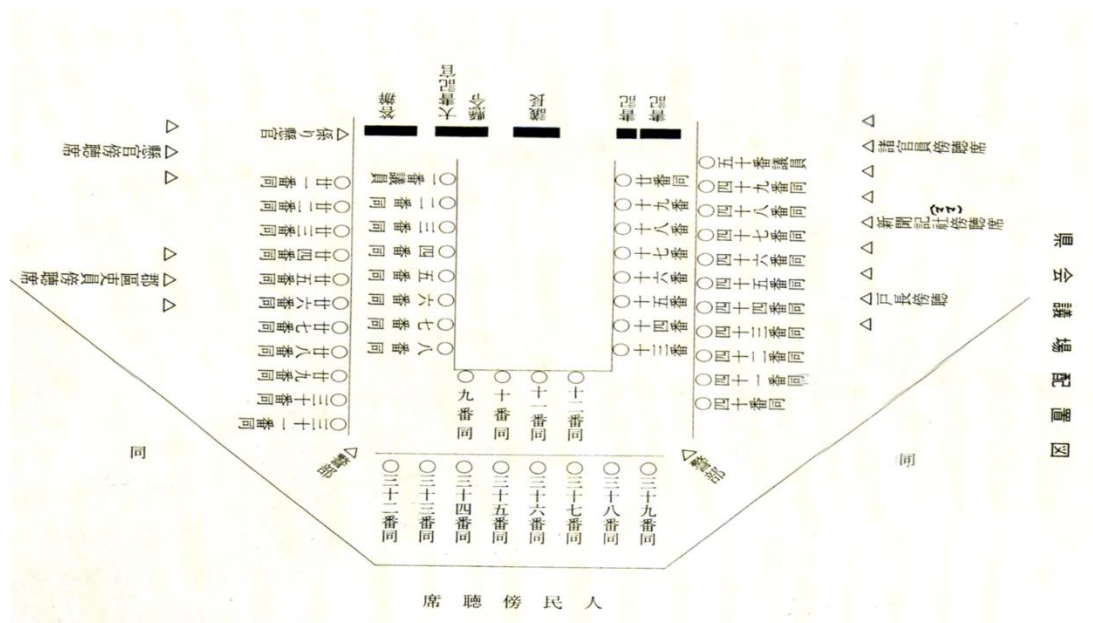
経年的に活動状況を見てみます。

- ・明治11年4月2日福沢と初対面「名論承り第一徳ヲ得候」
- ・明治12年5月10日開会式（東本願寺名古屋別院）
- ・5月11日 審議入り 6月27日閉会 52日間、実質審議45日間 議員出席1日平均34名
- ・県当局提出議案23件 原案どおり無傷可決8件 15件原案は、修正あるいは、否決
- ・熱田～四日市往復三菱汽船扶助費年額3000円について審議・「民費多端ノ折柄ナレバ費用減シテ頂キタシ」（金兵衛発言）
- ・6/ 金兵衛提案議案①「郡区吏員公撰ニスヘキ建議」松山義根（丹羽郡）との共同提案 賛成多数で可決された。安場県知事は、兼ねてから同じ見解をもっていたこともあった。しかし、最終的には内務卿伊藤博文により却下されている。
- ・5/22 商法講習所設立案 金兵衛発言 三十二番深谷半十郎（幡豆郡選出）の反対意見を支持
- ・5/23 中学校費の件 「総額ノ内二千圓ヲ減ジタシ」（深谷）に対し賛成発言

- ・6/14 女学校設置案 「方今我が国人智未だ開かず、加え小学校の設けありいえども民間の教育猶未だ充分ならず・・・現今民力凋落の折柄むしろ之を廃し・・・」と發議、深谷議員 議論蒸し返す。「一にも二にも疲弊した民力の扶助と更生を最優先しなければならない」と反論
- ・6/6 営業税及び雑種税賦課規則「遊芸師匠ハ不用ノ者ユエ税額ヲ増シタキナリ」と増税發言
- ・5/29 「土木費支弁法案」の中の「三日役」について断固反対の論陣を張った。加藤勝壽（愛知郡）青樹英二（海西郡） 激論の末「三日役」廃止  
金兵衛の立場は、終始一貫経費節減を訴え続ける。

金兵衛の發言は、一貫して、相手の意見は、否定せず、認めたくえで、何故反対なのかを説明する論法です。福沢思想の感化が認められるものです。

⑤ 県会議場配置図 (明治12年5月10日～6月27日)



⑥ 愛知県知事「安場保和」と林 金兵衛との関係

肥後細川藩、儒学者横井小楠の四天王として頭角を現した。岩倉使節団の一員としてアメリカへ渡った時、「砂糖水を給仕に頼んだおり、葉巻とバターが来た。シュガーとウオーターの英語が通じなかったことに落胆し、税金の無駄遣いである。と、渡航途中で帰国してしまう。」というエピソードをもつ。訪米後、福島県、愛知県、福岡県県令を歴任。貴族院議員、北海道庁長官などを歴任。日本鉄道創設、九州鉄道創設、安積野原開拓、二本松製糸工場開設、明治用水開削、門司築港、筑後川改修、愛知県堀川改造、など社会資本



の充実、災害防止に尽力。名古屋城金鯱の復元。北海道で高等女学校設立、福岡師範学校設立の際、女子部を設ける。女性に対する見方が先進的であった。芸者や妾を家に近づけなかった。愛知県令時地租改正反対の民衆側（金兵衛等）に一定の譲歩をしている。養子末喜と福沢諭吉との交流。地方官会議での発言は、一貫して民主主義的であった。

自らの資産は築かず、「死して余財あるは、陛下に背く所以」という文書を死の床に秘めていた。「涙なき近代化」を求めた数少ない政治家である。金兵衛については、福沢との交流を通じて十分認識していた。嫡養子末喜は、慶応義塾に学ぶ。家族ぐるみの交流。

### ⑦ 議長「武田準平」と林 金兵衛との関係

シーボルトの弟子伊東玄朴に学ぶ。蘭法医。明治 12 年県会議員、初代議長。進取社を結成し、自由民権運動の活動に邁進する。国会開設の建白書を元老院に提出。宝飯中学校設立に尽力した。明治 15 年 1 月 2 日刺客に襲われ死去。45 歳。国会開設の建白書を元老院に提出。宝飯中学校設立に尽力した。明治 15 年 1 月 2 日刺客に襲われ死去。45 歳



### ⑧ 所属会派『自由派』とは

『愛知県議会史』から、県議会の議員構成を見てみると、全議員（50 人）の政治的主義主張は、自由派 14 人、自由党系 2 名、改進黨系 1 名、無所属 33 人となる。議長の武田準平、副議長の近藤坦平は、共に自由派である。審議状況を見てみると、概して自由派議員の発言が多く、発議も自由派議員によるものが多い。

議長武田、副議長近藤の活動や、発言からは、その後の自由民権活動につながる傾向が見られ、金兵衛を含む自由派の会派集団は、後の立憲主義に基づく思考をもった議員達であったことが窺える。この時期まだ、はっきりした政党色をもつ政治集団は少なく、自由党（板垣退助）、立憲改進黨（大隈重信）がわずかに存在していた状況であった。従って自由派がどのような主義主張の政治集団であったかは、断定できないが、金兵衛は、少なくとも、福沢諭吉の影響を受けたことを考えれば、立憲主義を基本に、より民主的な政治のありかたを求めていたことが推測できる。しかし、金兵衛が自由民権運動に関わってゆくことはなかった。

### ⑨ 議員辞任後の金兵衛の動向

- 9/7 福沢書簡 8/30 金兵衛書簡に対する返信（福沢宛）儉約示談、自力社結社の件（自力社は民権結社ではなく、疲弊した村落再建のための金融機関としての役割をもった結社であった。）
- 10/11 福沢書簡 國太郎交詢社加入（嫡子國太郎、福澤思想の影響下に置こうとした。）
- 11/10 福澤書簡 儉約示談印刷の件
- 明治 13 年 2 月 6 日付け県議辞任 東春日井郡郡長就任
- 天皇巡幸準備 過労ピーク・明治 14 年 3 月 1 日死去（56 歳） 死因労咳

## OPINION

### 林 金兵衛の生き様に学ぶ

#### 一図らずも生じた「パワハラ提訴事件」を中心にして考えるー

1月、春日井市の議会内で、長年市政に貢献してきたベテラン市議会議員T氏がパワハラ行為があったとして同僚議員から提訴されている。新聞報道で知るところとなった。折しも愛知県政150年を経た年の第一回通常県会について、当時の県会議員の活動ぶりを、林金兵衛から学ぼうとフォーラムを開いていた最中のできごとであった。次元の低い話で、金兵衛をはじめ当時の県議達は、どのようにコメントするのであろうか。ハードは現代よりも貧弱であったでしょうけれども、1人1人の志は高く、人民のために奉仕する気高い精神が充満していた当時の状況と比較をするとなんと、低レベルの一言に尽きる。聞くところによれば、会派の中で土下座をさせたとか、させられたとか、市民にとっては何があったのかは想像がつかない。土下座した方もさせた方も言い分はあったでしょう。痴話喧嘩なら仲裁に入る人がいて丸く収まってゆくのでしょうかけれども、提訴されてしまうということは、いままでの我慢できない憤懣が積み重なっていたことが推測される。民主主義を具現化する実践を行う議会の中でこのようなことが行われているということを図らずも暴露した出来事でした。改めてもう一度「恥ずかしい」といいたい、多くの春日井市民の期待を裏切る行為でもあったことは間違いない。この一件で、わかったことは、立派な近代的な建物の内部では、古色蒼然とした、古い体質の組織運営が未だ支配しているということだ。市民の貴重な一票を得た議員は、選ばれれば何をやっても良いというわけではありません。市民の目線で市民が何を要望しているのか、どうしてほしいと思っているのか、真摯に耳を傾け、市民のために全力で要望を実現してゆく仕事が議員の仕事である。

150年前、身分制度を社会の基本とする社会から四民平等を建て前とする社会へと急激に変化をしてゆく幕末・維新の期間は、可視できない歴史の濁流に飲み込まれ、行き着く先の見えない激動の時の流れの中にいたと言えます。勤皇と忠義を絶対的大義として生きていた林金兵衛は、そうした時代の流れに翻弄されながらも、その時その時を自分の信念を貫き通す行動をしていたことが、人生の最後のステージであった、県会議員という立場の中にあっても強固なまでに頑なな姿勢を崩さなかった。その生き様は、現代に生きる私たちに一つの学ぶべき教訓を示しているように思えます。

春日井市制の中で生じた前段のできごとは論外であると言いたい。市政に携わる全ての人々に訴えたい、ポリシー、ビジョン、アイデンティティー、のある、そして、市民のために何とかしてやろうという「熱」のある政治家の出現を望みたい。150年前の県会議員 林金兵衛を通して歴史の教訓に学ぶべきである。 (文責：河地 清)

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学

検索

